

19 当院における金コロイド粒子免疫法による尿中乱用薬物検出キット「トライエージDOA」検査の現状

○藤平恭子 佐久間幸枝 布施義也 土井裕一
高橋英則(総合病院国保旭中央病院)

【はじめに】当院では、精神作用物質による急性中毒またはその依存症が疑われる患者に対する乱用薬物検出のため、2002年9月より金コロイド粒子免疫法による尿中乱用薬物検出キット「トライエージDOA」(シスメックス)を導入した。今回、当院での尿中薬物検査の現状について報告する。

【対象】2002年9月～2006年10月迄に「トライエージDOA」検査依頼のあった370件を対象とし検討した。

【結果】①年別依頼件数の推移:2003年の27件、2004年は131件、2005年116件、2006年10月現在96件の依頼件数であった。②診療科別件数:救急外来からの依頼は286件で78%を占めており、原因不明の意識障害等で来院した場合に依頼されると考えられる。③性別・年代別比較:年代別の検査依頼の比較では10・20代は女性、50・60代は男性が多かった。④検出薬物:BZO(ベンゾジアゼピン類)が全体の46%を占め、TCA(三環系抗うつ剤)が20%、AMP(覚せい剤)とOPI(モルヒネ系麻薬)が11%であった。⑤患者別検出薬物数の検討:単項目のみ検出は142件(38.4%)であった。薬物の複数検出例の検討では2種類51件(13.8%)、3種類12件(3.2%)、4種類2件(0.5%)、5種類1件(0.3%)であった。

【まとめ】当院の尿中乱用薬物検出検査は救急外来から依頼される場合が多く、検出される薬物もBZO(睡眠薬、抗不安薬)、TCAが多かった。しかしながら、AMPやOPI等では市販感冒薬成分との非特異反応の報告もあり、臨床医への判定結果の報告を行う際には、これらに対する情報提供も同時に行うことが重要である。

連絡先 0479(63)8111 内線(5128)

20 全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECTi200SRによるトレポネーマ抗体キット「アーキテクト・TPAb」の検討

○佐久間幸枝、藤平恭子、石毛久恵、土井裕一、
高橋英則(総合病院国保旭中央病院)

【はじめに】全自動化学発光免疫測定装置 ARCHITECTi200SRを用い、新しいトレポネーマ抗体キット「アーキテクト・TPAb」(以下本法)について、本法陽性例の性別・年齢別の分布や他のトレポネーマ抗体検出試薬であるメディエース TPLA (TPLA)、TPLA 中和試薬(中和)、ダイナスクリン・TPAb (IC) との比較検討等を行ったので報告する。

【対象】平成18年7月3日～11月8日に当院中央検査科に梅毒血清反応の依頼があった検体のうち、梅毒血清反応陽性の100例を対象とした。

【結果】①本法陽性例の性別・年代別分布:TP抗体陽性例は、男性52例、女性33例であった。また、年齢を増すごとに増加傾向にあるが、30歳以下でも5名の陽性例があった。②他法との相関:本法とTPLA、中和、ICとの一致率は、それぞれ87.0%、97.9%、96.9%であった。③不一致例の解析:TPLAで判定保留域の12例のうち、4例は中和、IC共に陰性であり、TPLAの非特異反応が示唆された。また、本法が陽性であった7例は中和・ICのいずれかが陽性であった。④本法の力価(S/CO)の評価:TPLA力価(T.U.)を陰性・低・中・高力価に分類し、本法の力価と比較した。TPLA力価が大きくなると本法の力価は大きくなる傾向であったが、中・高濃度域でフラットに達する傾向がみられた。

【まとめ】「アーキテクト・TPAb」について検討した。TP抗体は若年の陽性例が認められ、感染症検査として重要である。また、本法はTPLAに比較し、非特異反応は少ないが、中・高濃度陽性者に対する力価分類が困難であり、定性検査や確認検査としての有用性が高いと思われた。

連絡先 (0479) 63-8111 内線 5128